

春一番と台風

2680 地区 PDG 田中毅

テレビのスイッチを入れると、時間も局も関係なしに「新型コロナウイルス Covid-19」のニュースばかりが放映されています。感染は世界 46 ヶ国に広がり、既に世界的流行パンデミックの状態に入ったとして、先行きの不安から世界の株価も大幅に下がっており、オリンピックの中止もささやかれています。

日本では、横浜に寄港したダイヤモンド・プリンセス号における集団感染が大部分ですが、北海道や和歌山で局地的なクラスターが発生し、2 月末現在で発病者 932 名。死者 11 名(内、ダイヤモンド・プリンセス号 6 名)に達したため、政府は小中高等学校に対して春休みの前倒しを要請しました。

Covid-19 のワクチンはまだ開発されておらず、その実態も不明ですが、果たして、こんなに大騒ぎするほど恐ろしい疾患なのでしょうか。死亡率からみれば、武漢、湖北で約 4%、世界で 2.55%、日本では 1.18%であり、麻疹はしかの 1.61%以下に過ぎません。

昨年度流行期、2018 年 36 週から 2019 年 17 週におけるインフルエンザの患者数 1,205 万名、入院者 20,389 名、死亡率 2.45%と対比すると、インフルエンザの足元にも及ばない、軽い疾患であることがわかります。

死亡率で対比すると、

Covid-19 新型コロナ	2.24%
結核	15.00%
SARS サース [※]	11.00%
MERS マーズ [※]	34.40%
鳥インフルエンザ	60.00%

従って、これらの疾患と関連付けて大騒動することは、正しく春一番に台風の備えをするようなものだと思います。

来週からウイルス検査に健康保険が適応されるため、感染者数は大幅に増えるものと思われます。しかし、この疾患そのものはそんなに怖いものではなく、日常的に起り得る疾患だと考えるべきです。高齢者や基礎疾患を持った人の罹患率や死亡率が高いのは、Covid-19に限ったことではなく、どの疾患でも同様です。

唯一の気かりは、陰性になったものが再陽性化することですが、治療薬や、ワクチンも間もなく開発されるものと思われます。

マスクミを使って風評被害を煽ることは止めてもらいたいものです。毎年起こるインフルエンザの足元にも及ばない患者数、極端に低い死亡率であるにも関わらず、それを過大に騒ぎまわることによって、国民生活は大きな障害を受けることとなります。休校によって、子供を持つ、看護師、ヘルパーを抱えた医療、福祉施設は十分な活動ができません。すでに診療内容を縮小した医療機関も現れています。中小企業ではテレワークを採用することは不可能です。過度な規制によって日本経済が大きな打撃を受ける可能性があります。十分な予防措置を取ることを条件に、流行地以外の活動は、平常に戻すべきです。

疫学的には 3 月末から 4 月にかけて、ピークに達するでしょう。その後は徐々に収まって、半年後には、この病気のことは話題にも上らないでしょう。今年は、遅い時期にインフルエンザが(Covid-19)が流行ったなど楽観的に考えるべきでしょうし、この病気が常在的な疾患として残るかもしれません。

Covid-19 はちょっと強めの春一番が吹き荒れたに過ぎません。決して台風ではありません。

私の予想が当たることを願っています。